

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

静岡県 藤枝市

自治体名：静岡県藤枝市

担当課名：教育委員会教育政策課

電話番号：054-643-3135

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	194.06 km ²
人口	139,870 人
公立中学校数	10 校
公立中学校生徒数	3,773 人
部活動数	80 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

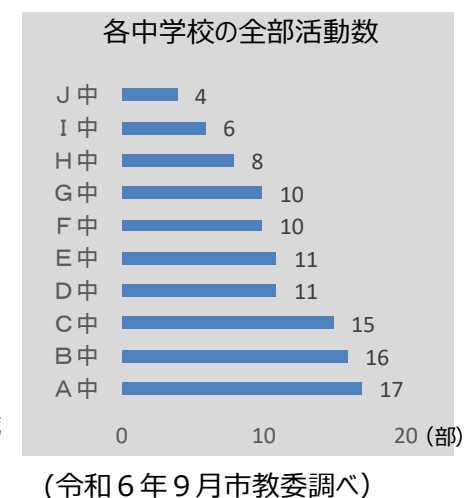
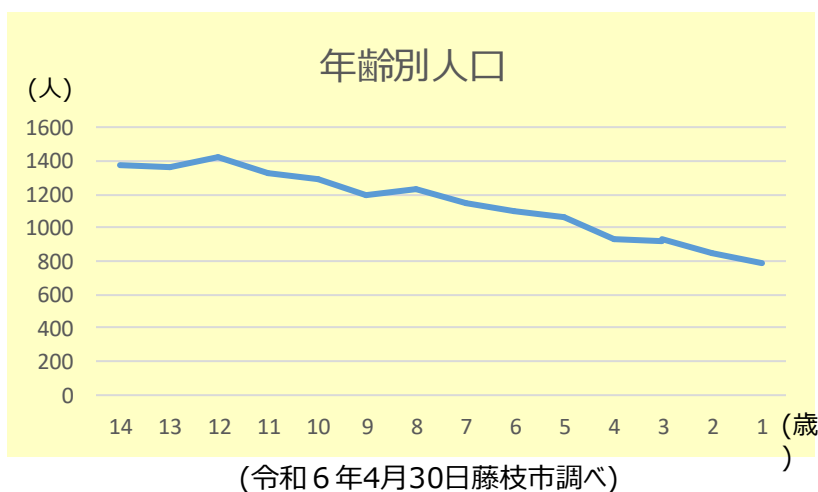
現在、藤枝市では中学校10校で8種目80部の運動部活動が活動している。近年の部員数の減少に伴い、野球、ソフトボールは合同部活動として活動している。また、3校の3種目7部は、個人戦には出場できるものの団体戦の人数がそろわない状況である。

市の年齢別の子ども的人口を見ると、12歳人口をピークに7歳で20%減、2歳では40%減となっており、今後も減少傾向が継続している。部員数だけでなく教員数も減少するため、現行の部活動の体制の継続は困難である。

中学生への指導を教員なしで継続的に行って

いただける地域指導者は、多くはいないことが想定される。教員に関しても、休日の部活動に携わりたいと答えた中学校教員は12.1%、小学校教員4.3%であり、以前の調査から減少傾向が見られ、十分な人数を確保できない。

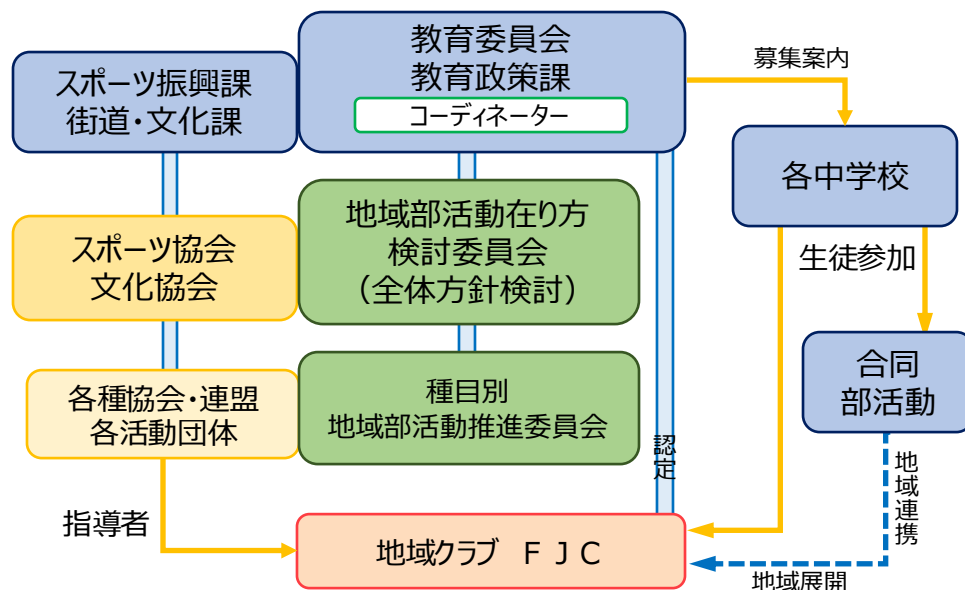
10校ある市立中学校は、中心部の大規模校と周辺部の中・小規模校となっており、設置部活動数に大きな差があり、生徒の選択の幅が異なっている。今後の少子化も周辺部の若年層の減少割合が大きいことが想定され、住んでいる場所に関わらず、どの子も興味・関心のある活動を選択できるような体制づくりが必要である。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・教育政策課・・・部活動改革の主幹、学校との調整・連携、関係課・関係団体との連携・調整

◎首長部局

・スポーツ振興課・・・スポーツ協会・スポーツ推進委員等との連絡・調整
・街道・文化課・・・文化協会との連絡・調整

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回在り方検討委員会の開催
令和6年6月	市校長会中学校部会参加 第1回種目別推進委員会の開催 サッカー、バレーボール、ソフトテニス、剣道
令和6年7月	バスケットボール
令和6年9月	第2回在り方検討委員会の開催 市校長会中学校部会参加 第2回種目別推進委員会の開催 サッカー、バレーボール、卓球、柔道
令和6年10月	ソフトテニス、バスケットボール、剣道 市校長会中学校部会参加 県中体連事務局訪問
令和6年11月	第3回在り方検討委員会の開催 エリア顧問会議(2エリア)参加
令和6年12月	エリア顧問会議(2エリア)参加
令和7年1月	セントラルF J C説明会の開催 第3回種目別推進委員会の開催 ソフトテニス、剣道、卓球、サッカー
令和7年2月	バレーボール、バスケットボール 第4回在り方検討委員会の開催 市校長会中学校部会参加
令和7年3月	セントラルF J C認定・広報等準備
令和7年4月	セントラルF J C部員募集、活動開始

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	10 校	実施した地域クラブ総数	4 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	15 人	全体の運営スタッフ数	5 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
藤枝柔道クラブ	既活動団体	柔道	週 3 回	18:30 ～ 20:50	中1 5名 中2 1名 中3 7名	4月 ～ 3月	藤枝市武道館	4 人	2 人（内、兼務0 人）	月会費 2,000 円	地域クラブ
国土塾	既活動団体	柔道	週 3 回	19:00 ～ 20:50	中1 2名 中2 4名 中3 1名	4月 ～ 3月	静岡県武道館	4 人	2 人（内、兼務0 人）	月会費 2,500 円	地域クラブ
藤枝リアン	既活動団体	バレーボール （男子）	週 3 回	平日夜間 日曜午前 中	中1 4名 中2 8名 中3 6名	4月 ～ 3月	小中学校体育館	4 人	1 人（内、兼務0 人）	月会費 4,000 円	地域クラブ
F J S	競技団体	サッカー （女子）	月 1 回程度 体験会を実施	日曜日 午前中	中1 6名 中2 3名 中3 1名	4月 ～ 3月	市サッカー場 中学校	4 人	指導者が兼任	今年度は 無料	出場無し

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- F J S は、今年度、女子サッカーの普及に努め、体験会を会場を変えながら実施。
- 他 3 クラブは、随時、見学、または、体験活動を行うことができる。

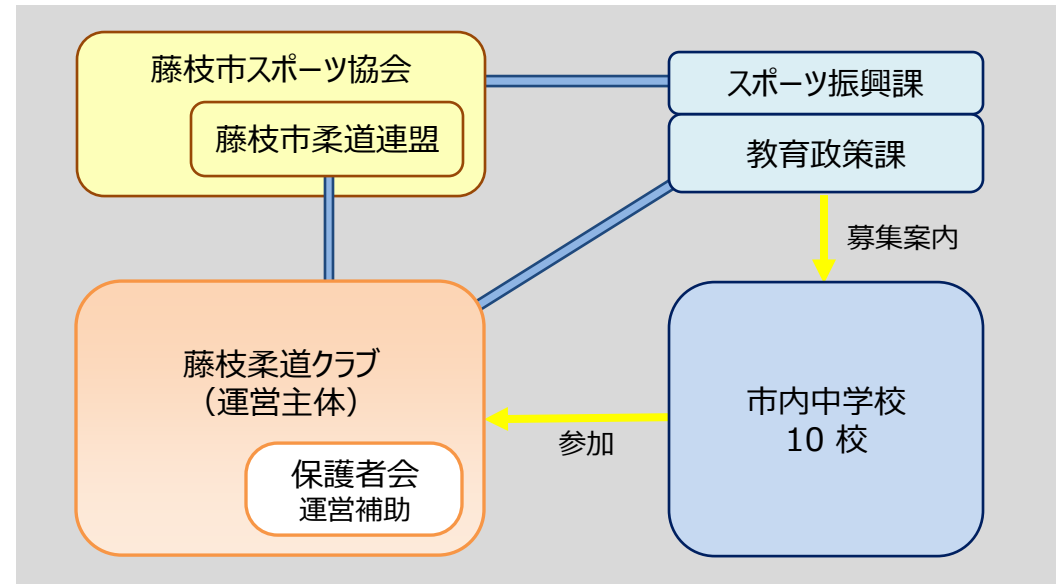
2.実証内容と成果

主な取組例

●藤枝柔道クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道
運営団体名	藤枝柔道クラブ
期間と日数	4月1日～3月31日 月12回程度
指導者の主な属性	柔道連盟 公認柔道指導者
活動場所	藤枝市武道館
主な移動手段	自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	24,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険等 生徒1人あたり：1,500円/年 指導者1人あたり：8,340円/年 (2種類加入)

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



○指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 役割：代表、全体統括
- 主任指導者 1名 役割：全柔連・大会出場などの登録、保険対応、練習メニュー立案
- 指導者 3名 指導、主任指導者の補助
- 運営補助者 2名 役割：会計

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備①

取組事項

○統括コーディネーター2名を教育政策課に配置し、学校、関係団体、クラブ、関係課等の連絡調整等を集中して行った。

○地域部活動在り方検討委員会で全体の方向性を、種目別地域部活動推進委員会で種目の実情に応じた対応を検討することができた。

○市校長会中学校部会に出席し、連携体制を構築、部活動のエリア化の準備を進めた。

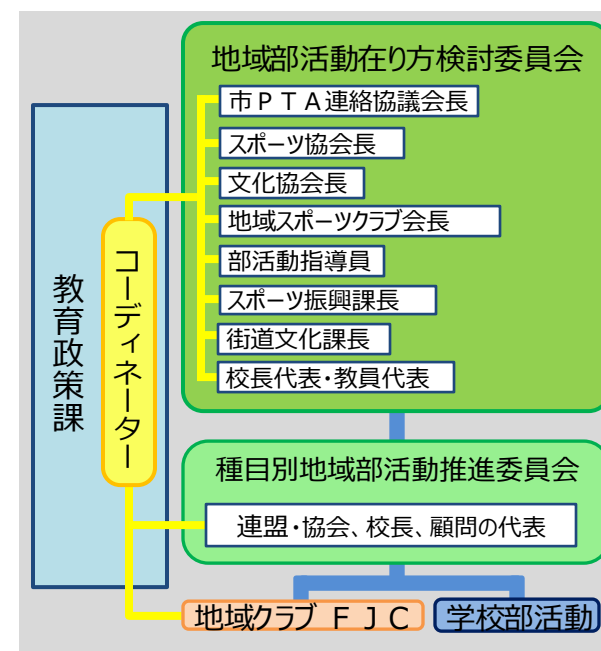
取組の成果

○統括コーディネーターを教育政策課に置くことで、体制整備等において関係課・団体との連絡・調整を円滑に行うことができた。

○様々な団体や競技団体の代表者で構成する地域部活動在り方検討委員会・各種目推進委員会を行うことにより、それぞれの立場と意見交換を行うことができ、併せて関係団体の理解・協力を得ることができた。

○2種類の委員会を行うことにより、中学生のこれからの課外活動（クラブ）をエリアとセントラルに分け、問題点や対応策を検討しながら具体的な準備を進めることができた。

○先行実施した地域クラブや関係団体と状況や課題を情報交換する中で要綱を制定し、新たにFujieda Junior Club（FJC）認定制度を制定することができた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・スポーツ振興課、街道・文化課と毎月情報交換会を行い、連携を深めた。
- ・4回の在り方検討委員会、各種目3回程度の推進委員会を開催した。
- ・Fujieda Junior Club認定制度実施要綱を作成した。
- ・関係団体との連携・調整に努め、FJC指導者説明会を開催した。

今後の課題と対応方針

- ・部活動改革は初めて行うことであり、多くの課題を事前に把握し全てに対応することは難しい。今後も改革を進めながら問題に対応していく。
- ・今後の地域展開では、休日から地域指導者を導入するが、安心して指導を任せることができる人材の確保と報酬の財源が大きな課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備②

取組事項

○学校部活動の改革について、コーディネーターの教育政策課配置の利点を活かし、校長会や各中学校と連携しながら、競技団体（各連盟・協会）の協力を得て、検討を進めることができた。

○学校部活動の地域展開を前向きに進められるように、教員にその必要性を示し、理解を深めることができた。併せて教員の意見も吸い上げ、具体的な対応につなげることができた。

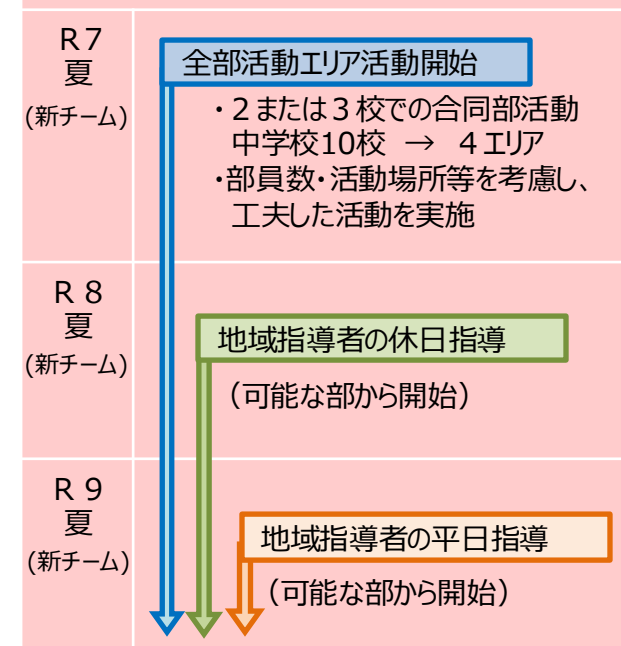
取組の成果

○統括コーディネーターが中心となり、学校部活動について、校長会、各中学校と意見交換をしながら、競技団体にも協力いただき、改革を進めることができた。

○学校規模の差や少子化等に関する市の課題に対応し、持続可能な中学生の活動の場を確保することを考え、学校部活動の地域展開として、「中学校10校の部活動」→「4つのエリアでの部活動」→「地域指導者の休日指導」→「地域指導者の休日・平日指導」という段階的な実施に向けて準備を進めた。

○各種目・各部により状況が異なるため、工夫したエリア活動を進めていくこととし、要望を受け、全てのエリアでエリア顧問会議を実施した。コーディネーターも全エリアの会議に出席し、部活動改革の必要性の確認とエリア化の準備の支援を行った。

学校部活動の地域展開の予定



コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・校長会中学校部会に年間5回出席し、学校との連絡・調整を行った。
- ・今後の部活動改革の周知チラシを作成し、校長から教員、教員から生徒への説明を依頼した。教員の認識に差があったため、質問を集約して教員用Q & Aを作成。教員が共通理解をして、改革を進めるようにした。

今後の課題と対応方針

藤枝市の中学生は今後10年で40%減となる。現在、部員数に差があり、試合出場や練習場所を考えると一律のエリア化は難しい。ただし、少子化が進み教員数が減少してからでは、学校に部活動改革を進める余裕が無くなることが考えられる。そのため、今から部の状況に応じてエリア化の準備を進めていくことが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 認定制度と指導者の掘り起こし
- ・Fujieda Junior Club（F J C）認定制度の制定（実施要綱の制定）
- ・セントラルF J Cの実施上の留意点（指導・運営者用資料）の作成
- ・F J C指導者説明会の実施、申請受付
- ・F J Cの役割（指導者に求めたいこと）と指導者研修会の内容等の検討

取組の成果

- 各委員会で様々な立場の方から意見を聞き、F J C認定制度実施要綱を制定した。
- 現在、試行している地域クラブがセントラルF J Cとなり、将来、学校部活動がエリアF J Cとなって加わることを想定し、令和7年度から本格実施するセントラルF J Cについて、具体的な活動上の留意点を作成した。
- 各競技団体や活動団体等に協力を依頼し、F J C認定制度の指導者説明会を実施した。8種目16団体の代表の方が参加し、終了後、8団体が申請の可能性があると連絡先等を提出した。
- 実施する予定のF J C指導者研修会について、指導者に求められることと研修会の内容について、在り方検討委員会で検討を進めた。

指導について

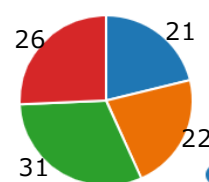
- ・勝利至上主義ではなく、人間的な成長を考えての指導。
- ・一部の生徒ではなく、誰もが活動を楽しむことができる指導。
- ・中学生の考えや思いに対応した指導。
- ・保護者や学校の顧問と連携しての指導。

指導者研修会の内容

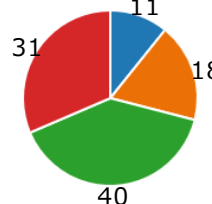
- ・F J Cの役割
- ・救急救命、感染症、熱中症の対応
- ・特別な支援
- ・体罰やハラスメント等の防止
- ・運営や指導についての指導者同士の情報交換

「エリア部活動での中学生の不安」

異なる学校の部員との人間関係が不安



異なる学校の顧問との人間関係が不安



- そう思う
- 大体そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

（R6教育委員会調べ）

今後の課題と対応方針

- ・F J Cは今後も増やしていく予定であり、実施団体（指導者）の人材確保を継続して行っていくことが必要。
- ・指導者説明会で個別質問にコーディネーターが対応したが、地域の方の部活動改革の周知がまだまだ不十分だとわかった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○校長会との連携を強化し、市校長会や臨時の中学校部会に参加した。

○両隣の焼津市と島田市の教育委員会を訪問し、それぞれの部活動改革について情報交換を行った。

○スポーツ振興課と街道文化課に、各月1回、部活動改革の取組の状況報告を行い、連携体制を作った。

○スポーツ協会や競技団体の会合等に要請・または必要により出向き、改革の説明等を行った。

取組の成果

○市校長会でも部活動改革にきちんと対応することを考え、部活動に特化した臨時中学校部会を定期的に開催し、コーディネーターが5回参加した。小学校部会には1回参加した。

○特に部活動改革の「学校部活動→エリア化→地域展開」に関して、学校の課題に教育政策課も対応を考え、助言を行った。また、教育政策課の取組への協力を小・中学校に依頼し、市内教員と小学校5、6年生、中学校1、2年生及び保護者への広報や中学校1、2年生と小・中学校教員へのアンケート調査を円滑に行うことができた。

○藤枝市は、中体連を含めた各種大会を志太大会等として焼津市、島田市と合同開催することが多いため、情報交換は今後必要である。

○首長部局のスポーツ振興課と街道文化課との連携について、改革初期の現在は、スポーツ協会・文化協会との連携仲介等が中心だったが、今後、クラブの活動支援等でより必要性が高まると考えられる。

〈例〉スポーツ協会との連携

スポーツ協会は、市の各競技団体が所属し、藤枝市新人戦の主催者でもある。市の部活動改革について説明し、協力を依頼した。その結果、各競技団体に、新人戦をはじめ市内大会においては、今後、エリア部活動に対応した大会開催に柔軟に取り組むよう指示があった。

〈例〉野球連盟との連携

エリア部活動を先行実施している軟式野球において、家庭の負担を考えると、試合用ユニフォームを新たにそろえることが難しいという問題があった。野球連盟の会合に参加し、状況説明を行うことで当面、市内大会ではユニフォームがそろわなくてもよいという返答をいただいた。

今後の課題と対応方針

学校部活動は、エリア化後に地域展開を計画しているが、種目・大会によって、エリア制合同部活動のチームが参加ができないものがある。今後も競技団体との連携を継続し、大会参加が可能となるように働きかけたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

保護者世代を含む社会の多くの人が、学生時代に部活動を行い、そこで身に着けたことを価値づけている。その部活動を大きく変えることは、心情的にも複雑だと思われる。また、地方の市では、人材、財源等が潤沢ではなく、部活動改革は難しい取組である。

藤枝市の部活動改革は、教員の働き方改革が主ではなく、子どもを中心に考え、部活動に関する課題解決を行うことを考えた。市内の中学生が居住地区によらず、誰でも同様に活動の選択肢があり、専門的な指導を受けることができる持続可能な体制を模索しながら着実に進むことを考えた。

コーディネーター2名を教育委員会教育政策課に配置することにより、移行初期として、関係団体や小・中学校との連携と協力体制を構築し、生徒や保護者の様子も把握しながら改革を進めた。令和6年度は、地域クラブを先行実施し、その状況を参考にしながら全体としての土台作りを進めた1年となった。来年度、セントラルのクラブとエリア部活動が具体的に動き出す。今後も、新たに生まれた問題に対処しながら、改革を着実に進めていきたい。

●成果の評価

○先行実施したセントラル方式のクラブの状況を参考に、Fujieda Junior Club認定実施要綱を作成し、教育委員会がクラブを認定する制度を作った。部活動に無い種目についても、認定し生徒に紹介することが可能となった。

○学校部活動については、段階的に地域展開を進めることとし、まずは令和7年度中の全種目エリア化に向けて準備を進めることができた。

○コーディネーター2名を教育政策課に配置することで、スポーツ協会や競技団体（各種目の連盟・協会）、校長会等との連携を進めることができた。

○部活動改革を進める上で、指導している教員に必要性を理解してもらうことは不可欠と考え、各エリアで行った各種目顧問会議にコーディネーターが参加した。部活動改革について説明することで顧問教員との共通認識を持つことができた。

●今後に向けて

○市内の状況を見ると、生徒数の学校による差、種目による差、部による差があり、今後の少子化の進行も地区による差があると考えられる。一律の推進が難しいと考え、それぞれの状況をきちんと把握し、各団体と連携して部活動改革を推進したい。

○来年度は、セントラルF J Cとエリア部活動が実施される。新たに生まれた課題を解決しながら前進するスタイルで中学生の課外活動の充実を図りたい。

○地域展開が進むほど、人材と財源の確保が必要となる。簡単な問題ではないが、検討を深めて対応できる準備を進めていきたい。

2.実証内容と成果②

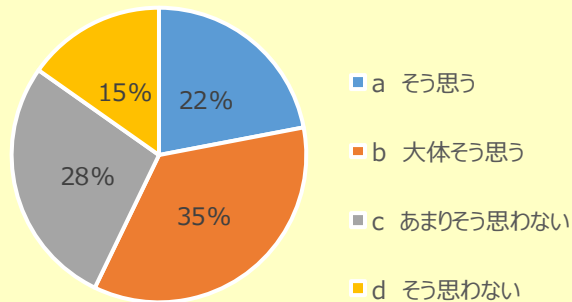
アンケート結果

●アンケート結果

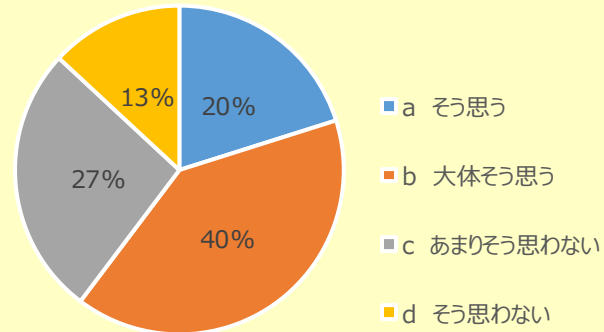
中学校 1, 2 年生を対象とした部活動エリア化に関する意識調査①

R 6 市教委調査

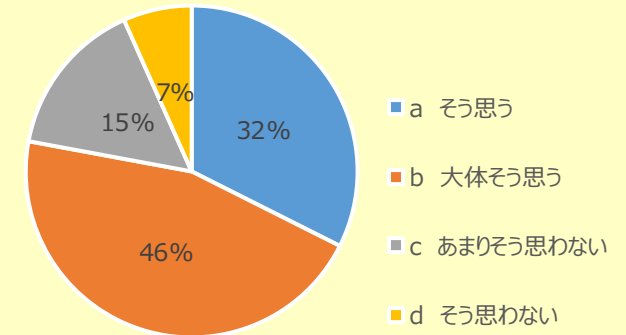
< 1 > エリア部活動へ参加することは好きだ（好きになりそう）



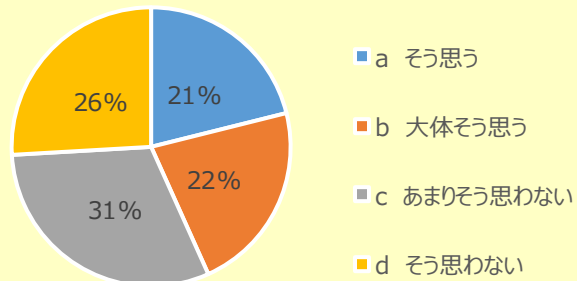
< 2 > エリア部活動へ参加することはやる気がでる（やる気がでそう）



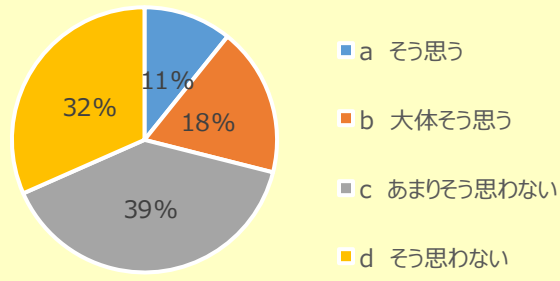
< 3 > エリア部活動への参加で、人間的に成長できる（成長できそう）



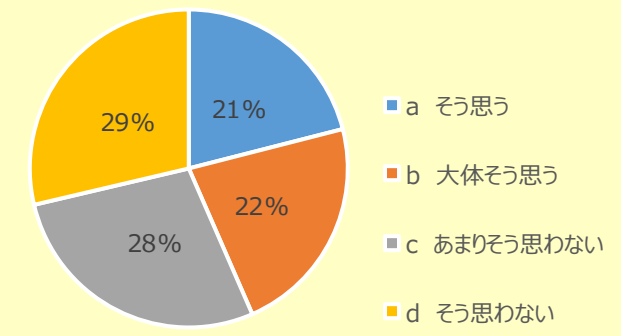
< 4 > エリア部活動への参加で、異なる中学校の部員との人間関係に不安を感じる。



< 5 > エリア部活動への参加で、中学校の顧問の先生等との人間関係に不安を感じる。



< 6 > エリア部活動への参加で、活動場所への移動に不安を感じる。



2.実証内容と成果③

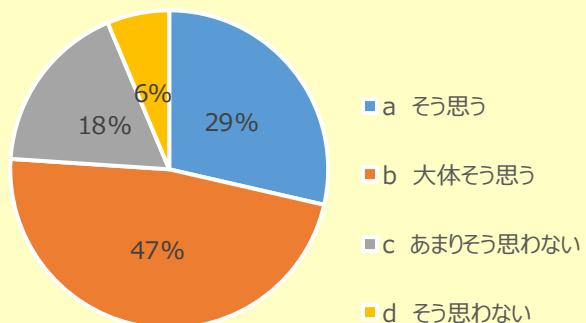
アンケート結果

●アンケート結果

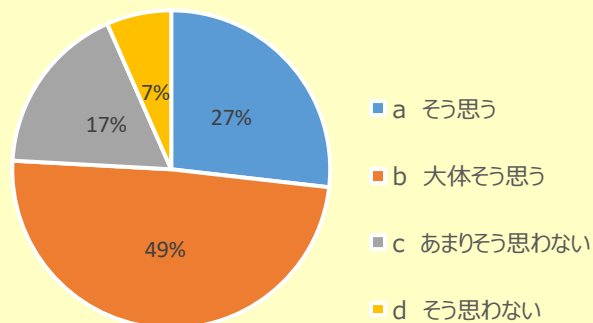
中学校 1, 2 年生を対象とした部活動エリア化に関する意識調査②

R 6 市教委調査

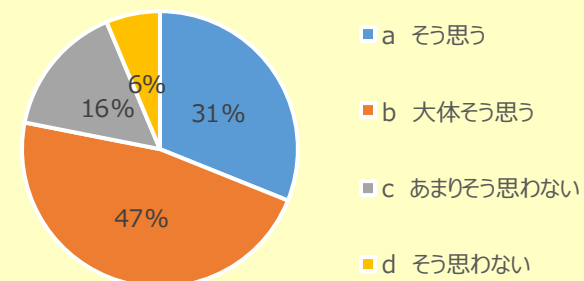
< 7 > エリア部活動で、部員同士の
良い人間関係を築ける（築けそう）。



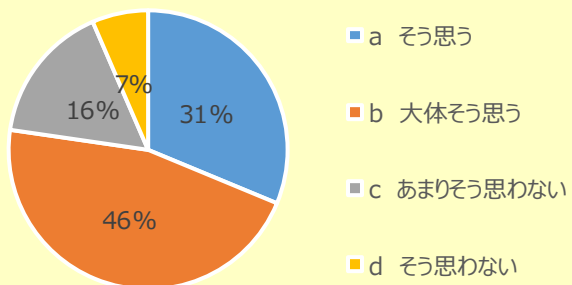
< 8 > エリア部活動で、チームとして
良い集団になれる（なれそう）。



< 9 > エリア部活動への参加で、自
分の競技についての専門的な技術が身
に付く（身につけそう）。



< 16 > エリア部活動への参加で、自
分の競技が上手になる（上手になりそ
う）。



令和 7 年 7 月（新チーム）からの部活動のエリア化に向けての調査で、全ての項目において、肯定的な意見が否定的な意見より多くなった。エリア制の部活動について、「情意」「不安」「人間関係・集団作り」「技術向上」に肯定的に捉えている生徒が多いことが推察される。先行している野球部が順調に活動していることもその一因になっていると思われる。

ただし、人間関係や移動に不安を感じている生徒もいるため、十分に配慮して活動していくことが求められる。

2.実証内容と成果④

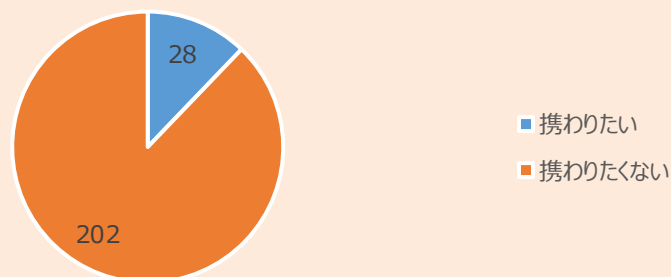
アンケート結果

●アンケート結果

小・中学校の教員を対象とした兼職兼業で地域指導者となることについての意識調査①

R 6 市教委調査

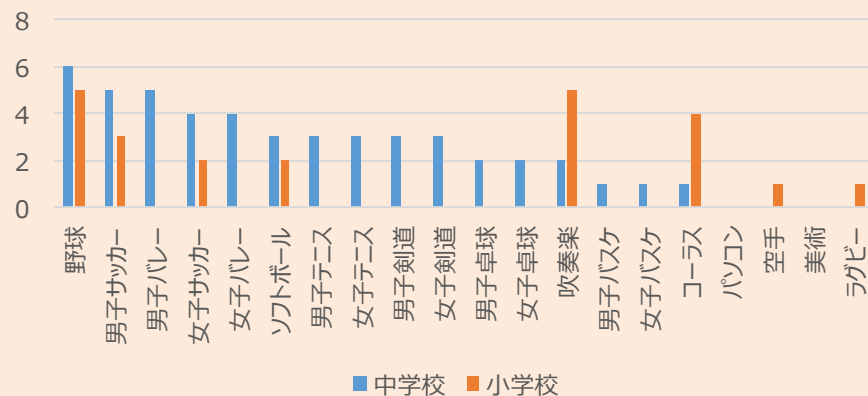
地域指導者として休日の部活動に携わりたい【中学校】



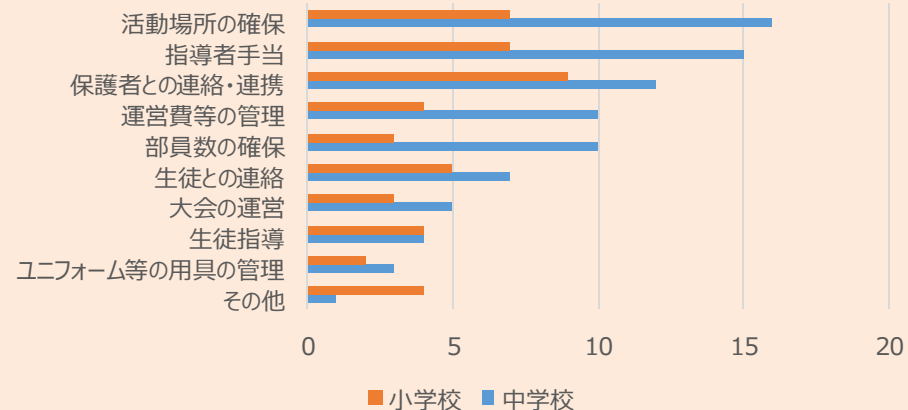
地域指導者として休日の部活動に携わりたい【小学校】



地域指導者として指導してもよい種目



地域指導者となることを検討する際、気になる点



2.実証内容と成果⑤

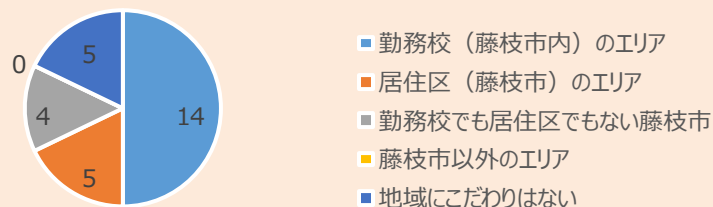
アンケート結果

●アンケート結果

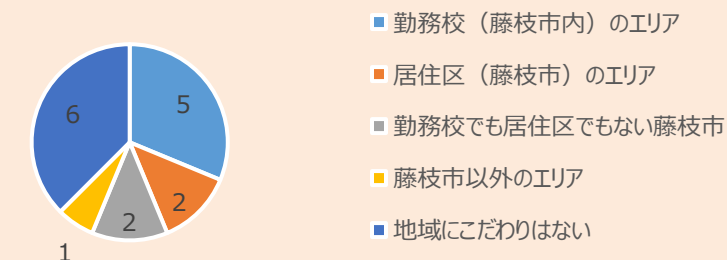
小・中学校の教員を対象とした兼職兼業で地域指導者となることについての意識調査①

R 6 市教委調査

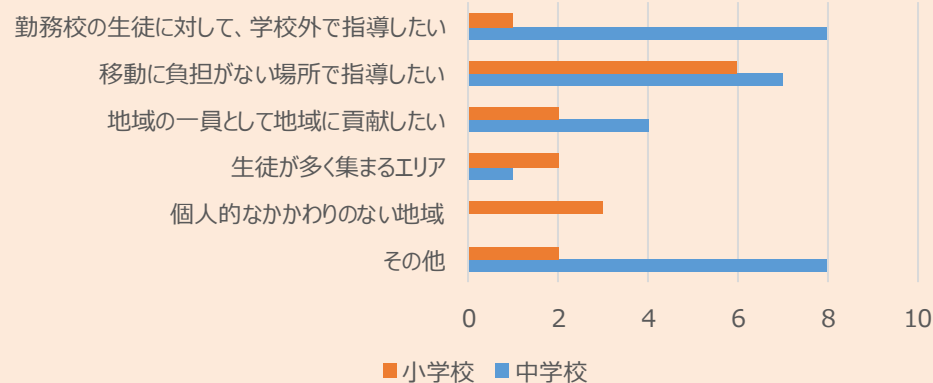
地域指導者として活動したいエリア【中学校】



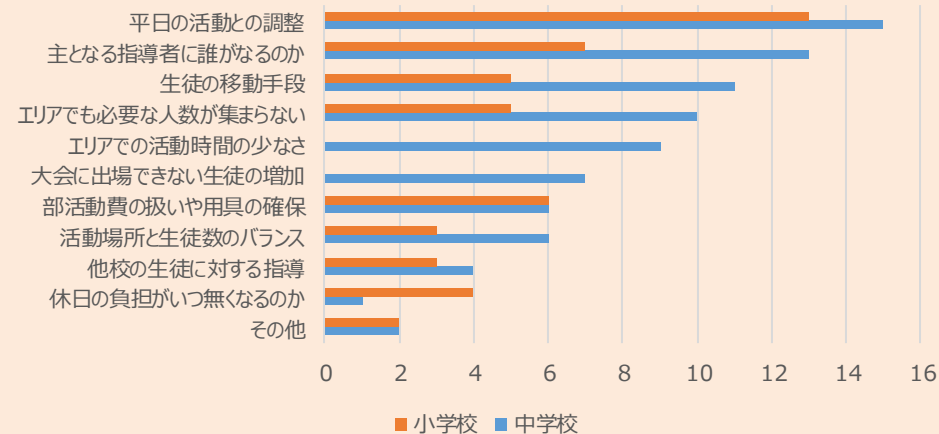
地域指導者として活動したいエリア【小学校】



活動エリア選択の理由



地域指導者となる場合に気になること



兼職兼業により地域指導者となってもよいと考える教員は、多くはない。地域の方も少ないことが想定されるため、教員の不安に対して丁寧に対応することが必要である。また、指導する場所にこだわりがある場合も想定されるため、規定等を整備しておく必要を感じる。

2.実証内容と成果⑥

地域クラブ活動の様子と参加者の声

藤枝柔道クラブ（柔道）



【対人練習前の挨拶】

「他の中学校の生徒との活動について」

- ・同じ中学校の生徒だけだと、練習相手になる人数が少ないが、クラブだと、いろいろな相手と稽古ができる。
- ・クラブだと、専門的な先生に教えてもらえる。とても良いことだと思う。

「部活ではなく、クラブでの活動について」

- ・他のクラブの中には、ガツガツ練習しているクラブもあるようだ。そういうクラブは、練習をやらされている感が強く出ているところもあるような気がする。
- ・このクラブは、自主的に頑張ることを見守ってもらっている気がする。伸び伸びと活動ができていると思う。
- ・クラブだと、本当に、自分がやりたい競技種目である「柔道」ができる。
- ・平日練習でも、1年中、2時間しっかり練習できることは、幸せなことだと思う。

国士塾（柔道）



【受け身の練習】

「他の中学校の生徒との活動について」

- ・友だちが増えて、楽しい。
- ・仲間の、普段の学校生活のことは、全く情報がないが、柔道の練習を通して、人柄や性格がだんだんわかってくるような気がする。そこが、楽しいと思える。

「部活ではなく、クラブでの活動について」

- ・部活動の場合、練習後に、同じ学校の友だちと、たくさんおしゃべりしながら家路につくが、クラブだと、保護者送迎となるため、練習の行き帰りに、友だちとのおしゃべりができないことが、ちょっと寂しい。
- ・部活動だと、学校の道場で練習をするので、夏、暑かったり、冬、寒かったりするけれども、武道館では、いづらか空調が効くので練習に集中できる。

地域クラブ活動の様子と参加者の声

リアン（男子バレーボール）



【パス練習】

「他の中学校の生徒との活動について」

- ・関係性は、学校の友だちと異なることは全くない。
- ・クラブ員同士、真剣に、そして、仲良く練習ができています。
- ・練習試合や合同練習では、他のチームの選手とも交流がある。

「部活ではなく、クラブでの活動について」

- ・そもそも、自分が通っている中学校には、男子バレー部がない。
- ・部活の場合は、冬季は、平日の練習時間がとても短く、10分～15分で活動終了の日もあるところ、クラブ「リアン」では、冬季でも、2時間みっちり練習できるところが、良いところだと思う。
- ・保護者に送迎してもらって参加している。応援してくれている保護者に応えるためにも、「しっかりやろう」という気持ちでやっている。

F J S（女子サッカー）



【ミニゲーム】

「他の中学校の生徒との活動について」

- ・いつも、同じメンバーで活動するよりも、違ったメンバーで活動する方が面白いと思う。
- ・その日に、一緒に活動する相手の特徴をちょっと見て、自分のプレーを考えてやっている。

「部活ではなく、クラブでの活動について」

- ・他学年の人など、いろいろな人と関われるところが良いと思う。
- ・少年団の時のチームは、ドリブルをする人が多いのに対して、ここでは、みんなにパスを送ることを心掛けてプレーしている。

2.実証内容と成果⑧

広報資料

藤枝市の部活動改革

藤枝市の中学校部活動改革の内容と計画をまとめました。藤枝市では、生徒の活動の機会をなるべく確保しながら、持続可能な形へと移行を進めていきます。ご理解とご協力をお願いします。



1 なぜ部活動改革なのか？ ～部活動を取り巻く諸問題～

【国・文部科学省】

- ・少子化や学校の多忙化等の諸問題
- ・将来にわたる生徒の諸活動の機会の確保
(学校部活動⇒地域クラブ活動)
- ・日常の学校教育活動の充実
- ・県や市町による異なる状況に応じての推進

【藤枝市】少子化等と現状の問題

○少子化問題

12歳人口は 5年後 20%減 10年後 40%減
(R6.4.30調べ)

- ・生徒数・教員数の減少 → 現在の活動維持は困難
- 現状の問題
- ・学校による部活動の種目数の違い
- ・種目経験のない教員が行う指導
- ・学校の多忙化による教員の専任的な活動の限界

2 藤枝市の取組 ～少子化等と現状の問題解決を図ります～

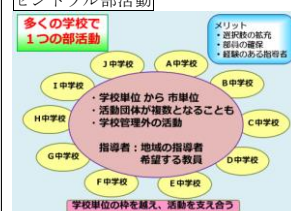
第1段階 学校単位の部活動から2種類の合同部活動に！

エリア部活動



スポーツ振興センターの給付対象
想定：野球、男子サッカー、バスケット、女子バレー、卓球、ソフトテニス、ソフトボール、剣道、吹奏楽

セントラル部活動



保険に加入しけが等に対応
想定：女子サッカー、男子バレーボール、柔道、文化的活動

※ 現在、各種大会やコンクールに合同部活動も参加できるよう規定等が変更されてきています

第2段階 エリア部活動の指導を地域の方に！！

- (1) まずは、休日について、可能なところから地域の方に指導をお願いします。地域の方が指導する活動をFujieda Junior Club(FJC)とします。
※ 地域の指導者には、希望する教員を含みます。



＜部活動改革広報用チラシ＞

部活動改革について、通知は配布したが保護者への周知は十分ではなかったため、令和6年度に作成・配布した広報資料。市内の小・中学校教員、中学校1、2年生と小学校5、6年生及びその保護者に配布。

3 今後の計画(令和6年10月時点での予定)

市教委や学校が連携して、地域の方が指導するFujieda Junior Club(FJC)に徐々に移行し、持続可能な活動となることを目指します。

時 期		R6春～	R7夏（新チーム）～	R8夏（新チーム）～	将 来	
ポイント		2種類の合同部活動開始	全種目のエリア化	地域の指導者の導入	全活動のFJC化	
エ リ ア 部 活 動	実施種目	野球、ソフトボール	全種目エリア部活動実施 （男子サッカー、バスケ、女子バレー、卓球、ソフトテニス、剣道、吹奏楽）			
	活動形態	平日は学校ごと、休日はエリア 夏季休業中はエリアでの活動も可		学校部活動は継続 FJCの一部試行	地域の活動（FJC） 施設は学校を主に活用	
	指 導 者	平日は教員（一部 部活動指導員） 休日は教員または部活動指導員		休日は地域の指導者 （可能なところ）	平日・休日ともに 地域の指導者	
	そ の 他	希望する部はエリアで 活動	部の状況により工夫し た活動を段階的に実施	休日に地域の方が指導するエ リアは、学校と連携して活動	学校は協力・連携	
セ ン ト ラ ル 部 活 動	種 目	女子サッカー、柔道、 男子バレー		状況により、エリアからセントラルに移行する種目も		
		文化的活動を含む他の 活動の実施を検討	準備ができた活動から 実施	状況により種目の拡大	子供たちの課外活動を 持続するためには 地域の皆様、保護者の皆様 のご理解とご協力が必要で す よろしくをお願いします！	
	対 象	部が無い学校の生徒		全中学校の生徒		
	指 導 者	地域の指導者				

※ 「地域の指導者」には「指導を希望する教員」を含みます。

※ 部員数や指導者等の状況が異なる場合、種目間等に多少の違いが生まれる可能性があります。

※ 移行期間中は、よりよいものを検討しながら進めるため、今後、内容や計画を変更する可能性があります

藤枝市教育委員会教育政策課

教育政策課作成 令和6年11月配布

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

各委員会設置
検討開始
方向性の確認

生徒・保護者へ
の広報
クラブの選定

令和6年

地域クラブ試行
生徒、保護者へ
の説明

FJC認定制度制定
部活動のエリア化
の検討・準備

令和7年

FJC募集・活動の
開始
部活動のエリア化

令和8年以降

エリア部活動の休
日の地域展開

●ステークホルダー

スポーツ協会、文化協会、活動団体、
学校、生徒・保護者

●経過

地域部活動在り方検討委員会・種目別
推進委員会（3種目）設置・開催
セントラル方式クラブの実施を検討
中学校との調整 野球部エリア制を試行
小6、在校生への説明 保護者へ広報

●実施にあたって生じた課題

有効な合同部活動の実施方法
エリアでも部活動の実施が難しい種目への
対策

●実施内容、工夫した点 等

部活動のエリア化は、全種目同一のエリア
とし、学校間での連携をしやすくした。

●ステークホルダー

活動団体・クラブ、生徒・保護者、学校、
競技団体

●経過

セントラル方式クラブ試行
小5～中2、保護者への広報
Fujieda Junior Club認定制度の制定
FJC認定制度説明会開催
学校との調整 部活動エリア化準備

●実施にあたって生じた課題

種目、部により部員数の違いや活動場所
の制約等がある
児童・生徒・保護者への周知が不十分

●実施内容、工夫した点 等

一律ではないエリア活動とし、各エリアで顧
問会議を実施して何ができるかを検討

●ステークホルダー

活動団体・クラブ、生徒・保護者、学校、
競技団体、休日の地域指導者

●経過

R7セントラルFJCの実施 R8拡大
R7全部活エリア活動開始
R7休日の地域展開の検討
R8休日の地域展開実施(可能なところ)

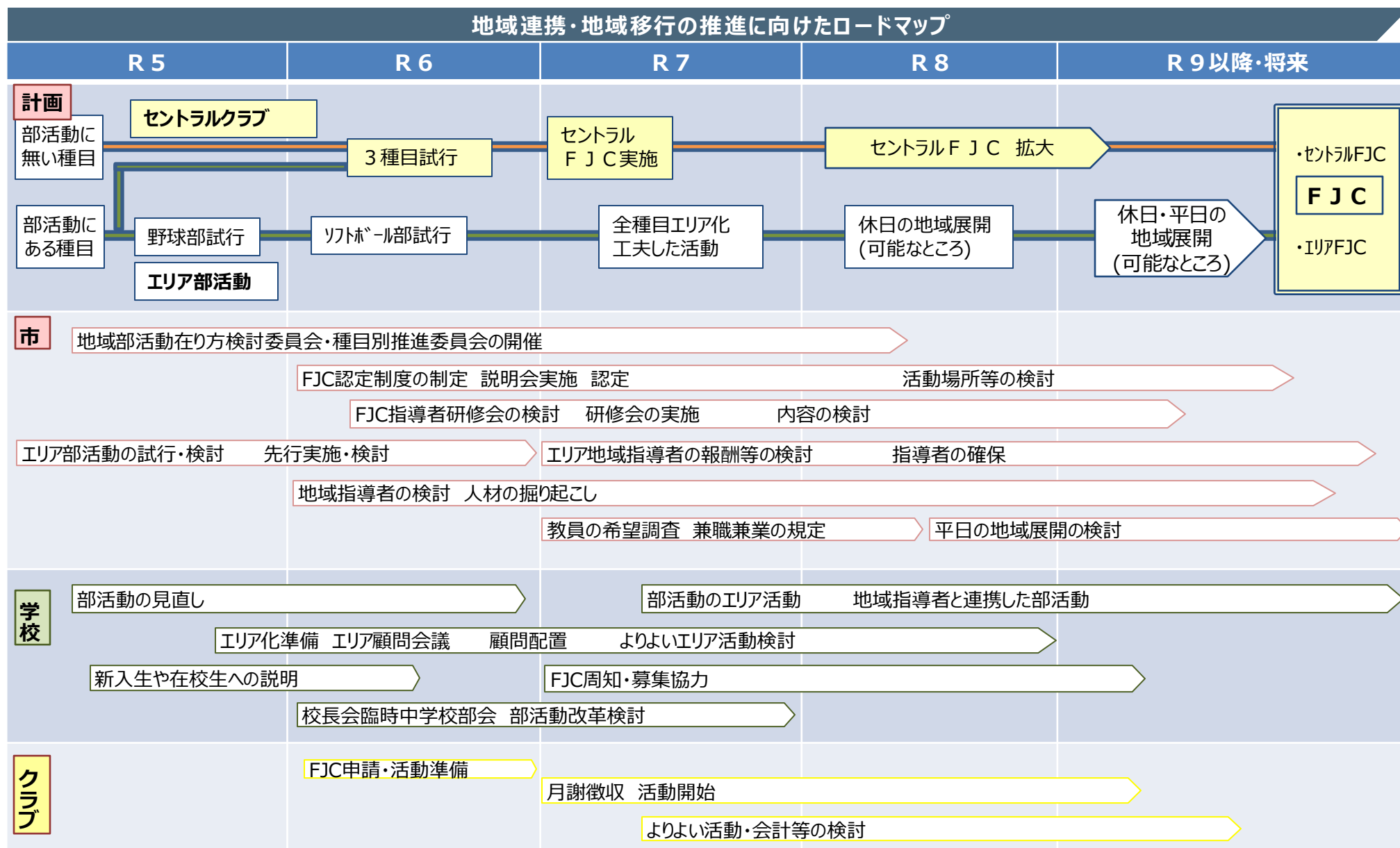
●実施にあたって生じた課題

種目により出場できない大会がある
休日の指導をお願いしたい人材の発掘
地域指導者の報酬額と月謝額

●実施内容、工夫した点 等

部員数、活動場所等の状況に応じた工
夫したエリア活動の展開
報酬と月謝については検討を継続

3.今後の方向性



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

静岡県 裾野市

自治体名：静岡県裾野市

担当課名：学校教育課

電話番号：055-995-1837

1.自治体の基本情報

基本情報

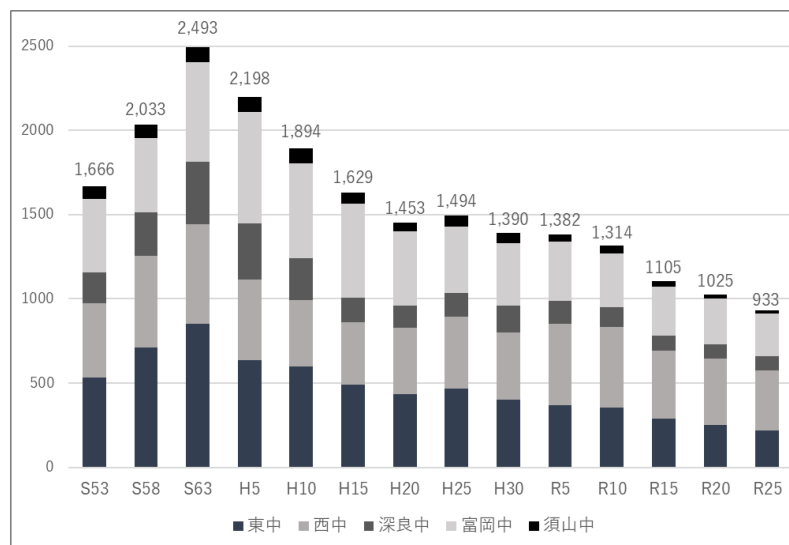
面積	138.4 km ²
人口	48,869 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,347 人
部活動数	47 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・人口減少等に伴い、軟式野球部については、各校単独でチームを組める状態でなく、市で1チームの合同チームとして活動している。また、小規模中学校も2校あり、自分のやりたい部活動がない。さらに、受け皿となる総合型の地域クラブがない。そのために、NPO法人アクティブすそのを立ち上げ、地域クラブの受け皿の強化と生徒・保護者のニーズに沿いながら、学校や行政を含

め全体をコーディネートする。陸上競技部については、先行して休日の部活動を地域クラブに展開している。地域展開を進める上で、指導者の確保や保護者の送迎負担等の課題があり、検討を進めている。令和9年度夏以降、休日の部活動は地域クラブ活動へ展開する。

裾野市立中学校の生徒数の推移



【課題】

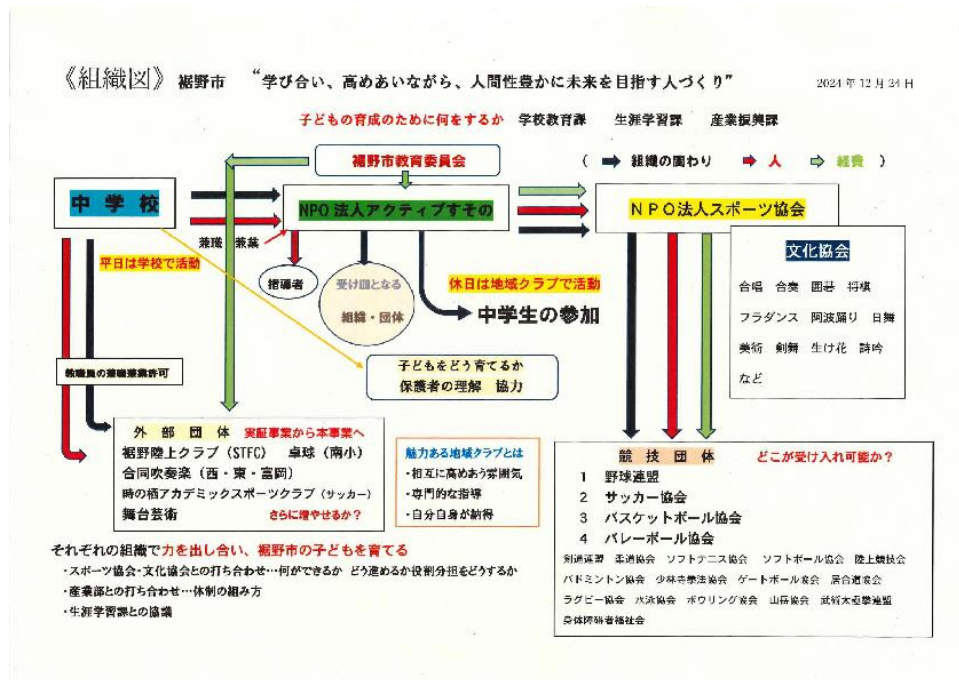
生徒数の減少に伴い、将来にわたり子供たちがスポーツ活動に継続して親しむことができる機会の確保を他市町と協力しながら、行う傾向が大きくなることが想定される。

※令和10年以降は推計（住民基本台帳による未就学児人口より市独自推計）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動の在り方検討委員会・部活動改革検討委員会事務局、部活動の現状把握、学校調整
- ・生涯学習課…中学生の地域スポーツ活動の環境整備

◎首長部局

- ・産業観光スポーツ課…中学生の地域スポーツ活動の環境整備

年間の事業スケジュール

令和6年4月	裾野陸上クラブ（STFC）活動の実施
令和6年6月	部活動の在り方検討委員会の開催
令和6年8月	クラブとの意見交換会実施
令和6年9月	部活動改革検討委員会の開催
令和6年10月	部活動の在り方検討委員会の開催
令和6年12月	部活動改革検討委員会の開催
令和7年1月	部活動の在り方検討委員会の開催
令和7年1月	指導者講習会の開催
令和7年2月	小学6年生へのニーズ調査

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	4 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
裾野陸上クラブ （STFC）	地域移行・運営型	陸上競技	月 2 回	休日 9:00-11:30 又は 18:00-20:00	中1 4名 中2 2名 中3 2名	令和6年 4月～	裾野市陸上競技場	4 人	2 人	月会費 1,000 円	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

特になし

2.実証内容と成果

主な取組例

●NPO法人アクティブすその 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	裾野陸上クラブ（STFC）
期間と日数	陸上競技：4月20日～3月15日 月2回程度
指導者の主な属性	大学教授・地域クラブ指導者
活動場所	裾野陸上競技場
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	陸上競技：12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、行政、学校、保護者との連携を行う

●主任指導者 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者 2名

役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

広域的な活動を行う総括コーディネーターを1名配置し、NPO法人、関係団体、関係委員会、市との連絡調整・指導助言を行う。

各種目の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

○総括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整等を円滑に行うことができた。

○スポーツ協会の団体と連携を取り、地域クラブとして何ができるか、今あるスポーツ関係の部活動ごと話し合いを持ったことにより、体制をどう整備したらいいかや指導者として活躍できる人材の確保についても見通しが持てるようになった。

○裾野陸上クラブ（STFC）には1名の兼職兼業の職員が参加し、持続可能な運営ができる組織体制を整備した。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・クラブを巡回し課題等のヒヤリング・助言等を実施
- ・協議会の調整等を実施し、関係団体や行政との連携に努めた。
- ・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

- ・コーディネーター業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

裾野陸上クラブ（STFC）

取組事項

裾野陸上クラブ（STFC）の様々なつながりから、高校生・大学生・大学教授など幅広い競技者や指導者が確保できる。また、各学校や市教育委員会において、指導者を推薦、採用する。

・主任指導者

宮川千秋氏

東海大学名誉教授。短距離のオリンピックコーチを3度務め、100m・400mの前日本記録保持者を育てるなど日本短距離界の屈指の指導者

・指導者

山本祥平氏

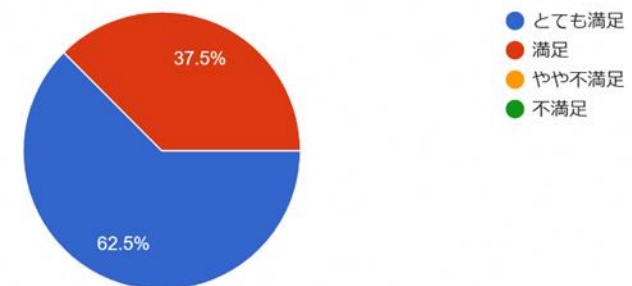
市町駅伝裾野市コーチ。R5年度静岡県陸上選手権10000mで優勝

・兼職兼業職員1名（ハードル）

取組の成果

参加した中学生・保護者・スタッフ16人を対象としたアンケートの結果、回答者の62.5%がとても満足、37.5%が満足と回答した。練習会を終え、保護者からは、「丁寧でわかりやすい指導だった。」「子供たち全体からやる気と集中力が感じられました。」「レベルの高い練習に参加できて子供たちにとって、とても良い刺激になったと思います。」等感想をいただいた。

16件の回答



地域クラブ活動へ参加（参観）しての感想

令和6年度文化庁実証事業アンケートより

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

○講義

講師：東海大学名誉教授 宮川 千秋氏

内容：「地域クラブにおいて個々の自主性を高め、さらに高い主体性を生むことができるか」

ー「年間トレーニングプラン」の立案・提示・実践からその可能性を探るー
元陸上競技のオリンピックコーチである宮川氏の「プレーヤーセンタード」の考え方はプレーヤーを中心にしながら、それを取り巻く環境整備が大事でありパフォーマンスを最大限発揮できるように連携協力する関係であり、どの指導者にも心に響く講義であった。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和7年1月30日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 18人

この指導者研修会は、部活動指導員及び部活動外部指導者の研修も兼ねて行った。

受講者の声

- ・本日の先生の話や他の指導者の方の話を聞ける場はありがたいです。今後の自分の指導に役立てます。
- ・とても素晴らしい話が聞けました。自分の教育のやり方に変化を起こせそうな話でした。プランなど親を交えてやるのはいいことだなと思いました。
- ・指導法をわかりやすく説明していただきよかったです。他の指導者の意見も聞けて参考になりました。
- ・大変勉強になる研修会でした。中学生レベルに対して教えることの難しさを改めて感じました。その中で自分が持っている最適な指導で学業も含め、知識・技術を伝えていく必要を感じました。
- ・知的好奇心（言語・視覚的・情報）先生と同じ考え方とわかり安心しました。
- ・宮川先生のお話を聞いて、今、自分がやっている、考えていることに自信が持てたとともに指導に関してもとても参考になりました。他の指導者の方との意見交換もとても良かったです。
- ・宮川教授のお話はとても素晴らしい内容でした。

今後の課題と対応方針

- ・複数回の研修会の実施と効果的な研修内容の精選。
- ・指導者間の意見交換や交流する場の確保。
- ・部活動指導員や部活動外部指導が地域クラブ指導者になるための支援や環境整備。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○広域的な活動を行う総括コーディネーターを配置し、関係団体との連絡調整を行う。

○事業の折には職員が出向き状況を把握する。また、裾野陸上クラブ（STFC）の役員と年3回打ち合わせを行う。

取組の成果

○参加した中学生、保護者を対象としたアンケートの結果、回答者の96.4%が来年度も参加したい、参加させたいと回答。教員の残業時間が休日の部活動が減ったことにより平均8時間削減した。

○STFCと打ち合わせ

・4月19日（総括コーディネーター、市担当者、STFC役員）

指導者の派遣、施設の利用、市からの負担金について話し合いを持つ。

・8月7日（総括コーディネーター、市担当者、STFC役員、地域おこし協力隊）

市の地域おこし協力隊が練習の様子を見学。

指導者確保について話し合いを持つ。

・1月11日（総括コーディネーター、市担当者、STFC役員、スポーツ協会役員）

R7の計画、平日の部活動との関わり、小学生の参加について話し合いを持つ。

今後の課題と対応方針

- ・地域クラブを持続可能なものにするためには指導者の確保が必須と考える。今後、指導者の確保や育成をどのようにしていくか。
- ・将来に渡り子供たちがスポーツや文化芸術活動に親しむことができる機会の確保が第一と考える。地域クラブの団体が持続可能な運営をするための仕組みをどのように構築するか。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

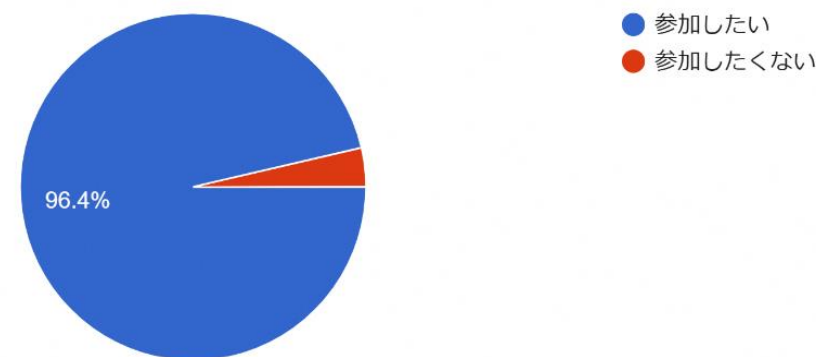
●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 生徒・保護者・スタッフにアンケートを実施し、質の向上を目指し、各団体の運営に生かす。
- 裾野市部活動の在り方検討委員会を開催し、他団体と課題を共有し、活動内容の改善を図る。

取組の成果

- もっと地域クラブ活動の実施回数を多くしてほしいという声が多く、活動に満足している生徒が多かった。
- 中学校に陸上部がない生徒の参加ができ、自分のやりたい種目にチャレンジでき充実感を感じている。
- 部活動の在り方検討委員会の中で、顧問と協力団体との話し合いが行われ、次年度の方方向性が固まった。



来年度も地域クラブ活動に参加したいですか

令和6年度文化庁実証事業アンケートより

今後の課題と対応方針

- 中学生・保護者を対象としたアンケート結果によるともっと活動回数を増やしてほしいという声が多くあった。しかし、回数を増やすことで受益者負担が2倍～3倍になると困るという回答もあった。
- 令和7年度は、小学生や卒業した生徒も募集対象とする予定である。人数が増えることで、受益者負担が抑えられると考える。

- 様々な団体と協議を進める中で、各中学校の日課と団体の活動時間が合わないということが問題となった。
- 各中学校の日課を市で統一する方向で検討。校長会に提案する予定である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○陸上競技は分野が広く、陸上競技の経験者であっても全部を専門的に教えるのは難しい。そのため、裾野陸上クラブ（STFC）の協力のもと、生徒が陸上競技の専門的な指導を受け、その子なりに速く走れるようになったり、きれいなフォームになったりと自分なりの目標が達成できている。陸上競技をやってみたい、もっとやってみたい生徒を対象に募集をし、中学校に陸上競技部がない中学校からの参加があり、やりたい活動を将来に渡し、継続して親しむことができる機会の確保ができた。

また、元オリンピックコーチの東海大学名誉教授 宮川千秋氏を招聘し、年間計画や実際の指導のノウハウ等の指導を受け実践した。

●成果の評価

○裾野陸上クラブ（STFC）のつながりで全国的に有名な指導者を招くことができ、練習風景を見ると生徒のわくわく感が感じられた。また、他の指導者も勉強になり指導力が付いた。さらに、練習時に高校生・大学生・地域の方など幅広い競技者と一緒に活動していただいたことはとても刺激になり、さらなる活動への意欲につながった。

○普段とは違う良い環境の裾野市陸上競技場で練習できたことで、練習するたびに記録が向上し充実感につながった。

○総括コーディネーターが中心となり、部活動改革について行政と将来を見通した話し合いを持ち、一定期間援助を取得でき財源の確保ができた。

○校長会から学校へ情報発信し、部活ごとの顧問会を開催し意見交換したことで、全体が関わる改革として前進した。

●今後に向けて

○生涯にわたって活動ができるよう、地域クラブ活動に中学生だけでなく地域住民や小学生なども募集し、活動の幅を広げる。

○地域クラブ活動への送迎の負担が保護者にあることから、保護者以外の送迎の手段を検討する。

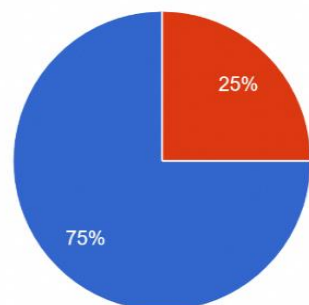
→自転車・オンデマンドタクシー等を活用する。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

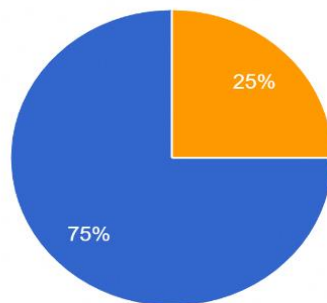
●アンケート結果

Q. 裾野陸上クラブ（STFC）の指導者についての感想を教えてください



- とても満足
- 満足
- やや不満
- 不満

Q. 来年度も裾野陸上クラブ（STFC）の活動を行いたいと思いますが参加しますか？



- 参加したい
- 参加したくない
- わからない

●参加者の声

中学2年生

他校の生徒と関わったり、宮川先生の指導を受けたりといった貴重な経験をさせていただいて、来年度も実施するということでぜひ参加したい。

中学1年生

やる気のあるメンバーで、丁寧な指導を受けられたので、この1年、自分のやりたいことができ、とても充実していました。

指導者

子どもたちの集中力ともっと早く走れるようになりたいという思いがひしひしと伝わってきました。とてもやりがいのある充実した活動でした。

保護者

子どもたちの表情がいつもよかったです。いつもは大会でしか交流できないので、このように練習ができることは、子供たちにとって良い刺激になったと思います。ありがとうございました。

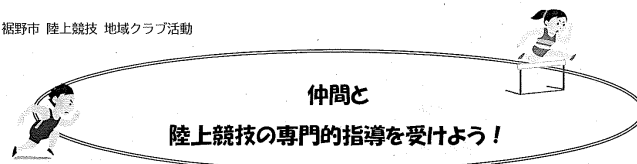
2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

○令和5年度に裾野陸上クラブ（STFC）と裾野市教育委員会の連携により、市内の陸上競技部の合同練習会を6回実施。実施後のアンケートで「年度当初からやってほしい」の声を受けて令和6年度も月2回実施。

3期に分け、募集。コーチ陣も種目別にそろえ指導に当たっている。より速く走り、より高く遠くに跳び、より遠くに投げるために一緒に練習しよう。

裾野市 陸上競技 地域クラブ活動



文部科学省では、令和4年12月に学校部活動及び新たな地域クラブの在り方等に関する総合的なガイドラインの中で、令和5年度から7年度までの3年間を「改革推進期間」とし、地域移行・地域連携に取り組むことを目指すことが示されました。

裾野市においても、生徒にとって、望ましいスポーツ・文化芸術活動の実現を図るため、様々な競技団体と連携を図りつつ、地域移行・地域連携について協議を進めています。令和5年度には裾野陸上クラブ（STFC）と裾野市教育委員会の連携により、市内の陸上競技部の合同練習会を6回実施しました。実施後のアンケートの中に「年度当初からやってほしかった」「3年生の中学生が終わるまでやってほしい」という意見もありました。令和6年4月から、学校部活動とは別に地域クラブとして、活動を持続可能な形としていくために、裾野陸上クラブ（STFC）の協力のもと、練習計画を作成しました。

中体連向け、できるだけ種目別に指導者が付き、練習を行います。充実した練習になると思いますので、裏面のQRコードから種目別申し込みください。

○日時等（第1期）

※1期（4月～7月）2期（8月～12月）3期（1月～3月）それぞれの期間で募集する。

回	月	日	曜日	時間	備考
①	4	20	土	9:00～11:30	
②	4	27	土	9:00～11:30	
③	5	15	水	18:00～20:00	昼間は陸上競技場がいっぱいで使用できないため
④	5	29	水	18:00～20:00	
⑤	6	15	土	9:00～11:30	
⑥	6	22	土	9:00～11:30	
⑦	7	6	土	17:00～19:30	昼間は陸上競技場がいっぱいで使用できないため
⑧	7	13	土	17:00～19:30	

○会場 裾野市陸上競技場

○参加費用 保険代800円（年間） 持参してください。

- ・3年生 2000円（4月・5月）
- ・2年生 4000円（4月～7月）
- ・1年生 3000円（5月～7月）

※1回目の練習時に参加費用（保険代＋参加費用）を持参してください。

○持ち物 競技に必要なもの、水筒等 雨天：帽子・カッパ・替替え・タオル

STFC 指導者

氏名	専門種目	所属	紹介
志村 孟利	短距離	STFC 代表	陸上指導者歴60年。高岡中や裾野東中の外務指導者も行ってきた。
宮川 千秋	短距離	STFC 特別コーチ (東海大学名誉教授)	100m,400mの前日本記録者を行って るなど日本短距離界屈指の指導者
小林 遼	短距離・走幅跳	STFC コーチ	中学陸上顧問歴30年。全中陸上400 mで4位入賞や優勝の選手を育成。
山本 祥平	長距離	STFC コーチ	市町駅伝裾野市コーチ。R5年度東海 陸上選手権10000mで6位入賞
山中 健秀和	長距離	STFC コーチ	市町駅伝裾野市代表選手。5000mマ スターズ東海記録保持者
小林 由英	投擲	STFC 特別コーチ (長泉中陸上部顧問)	小学校時代から全国大会に出場。R6 年度東海選手権円盤投げ優勝
渡邊 力輝斗	短距離・ハードル	STFC 特別コーチ (裾野西中陸上部顧問)	小学校～大学まで陸上競技者とし て活躍。陸上競技指導者資格を取得

【1期申込書】

【コーチ陣の紹介】

2.実証内容と成果④

(活 動 写 真)



【リズムを大事にした練習】



【一人一人に声をかけその時の調子を確認する】



【準備運動は宮川氏の指導のもと念入りに行う】



【夏場は暑い昼間を避け
夜の時間帯で練習】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

いくつかの先進地域を訪問し、地域の現状や地域移行関連の取組、運営体制、課題等を学び、本市での有効な取り組みを検証。

令和5年

裾野陸上クラブ（STFC）の代表と陸上競技の地域クラブについて数回協議を重ねる。

地域クラブ活動を進める上でアンケートを取り、国の実証事業に手上げをし、地域移行する素地を作る。

令和5年

関係者への
ヒアリング

協議会設置検
討開始

令和5年

運営団体の選
定

合同練習会
開催

令和6年4月

顧問と協議し、生
徒、保護者への
説明

地域クラブ活動
の開始

年3回教員中心で行われている部活動の在り方検討委員会で、協議会設置を検討。

公益財団法人スポーツ安全協会のスポーツ等普及奨励助成事業に応募し、裾野陸上クラブ（STFC）の協力を得て、計6回の合同練習会を行った。多くの仲間と専門的指導者のもとで練習することにより、競技力や意欲の向上がみられた。

令和6年4月

裾野陸上クラブ（STFC）の協力を得て、裾野陸上競技場で月2回休日の地域クラブ活動をスタート。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

裾野市地域クラブ活動への移行に向けた事業スケジュール（予定）案

	R6	R7	R8	R9 夏～
	国「改革推進期間」		「改革実行期間」	
	実証事業			
NPOアクティブすその	設立完了 コーディネーター配置 文化協会やスポーツ協会と連携	・兼職兼業の職員・地域指導者を地域クラブへ配置 ・学校・関係団体等との連絡調整 ・地域クラブの発掘、人材（指導者）の発掘 ・指導者の派遣管理、研修会 ・各種検討委員会の運営補助		
学校部活動の再編	新入生説明会（休日の部活動廃止・地域クラブ活動の説明） 校長会・教頭会・職員に周知（11月～） 中学校保護者説明会（参観日等） 顧問会 1月 生徒のニーズの調査	・できる部活動から休日の学校部活動を地域クラブ活動へ 陸上競技部移行時期（休日希望があれば対応）	休日の部活動廃止 →地域クラブ活動に移行した部活動 卓球部移行時期（休日希望があれば対応） ○○○部移行時期（休日希望があれば対応）	休日の部活動完全廃止 →休日は地域クラブ活動
地域クラブ関係	陸上	実証事業陸上競技部地域クラブ合同練習（月2回） 陸上競技部顧問会 陸上競技部保護者会	・陸上部の休日の部活動廃止（夏以降） 陸上競技部地域クラブ（週1回）	
	吹奏楽	実証事業吹奏楽部地域連携合同練習（年7回）	実証事業吹奏楽部地域連携合同練習（年20回） 吹奏楽部地域連携合同練習（年20回）検討中	
	卓球（山中）	実証事業卓球部地域クラブ合同練習（月4回）	実証事業卓球部地域クラブ合同練習（週1回） 卓球部保護者会	R7夏以降（西中・深中・東中）卓球部地域クラブ（週1回）
	野球	・裾野市合同チーム 野球部保護者会	裾野市合同部活動	
	サッカー		実証事業○○○部地域連携合同練習	裾野市合同部活動
	中学校の部活動で、ある程度持続可能な活動	顧問会	保護者説明会	・NPOアクティブすそのから指導者を派遣（兼職兼業の職員を中心に元外部指導者等を充てる）
	中学校の部活動で、単独でチーム等が組みなくなる可能性がある活動	顧問会	保護者説明会	・合同で活動し、NPOアクティブすそのから指導者を派遣（兼職兼業の職員を中心に元外部指導者等を充てる）
	中学校の部活動で、文化協会・スポーツ協会と連携しながら取り組む可能性がある活動	顧問会		・協会と活動し、NPOアクティブすそのから指導者を派遣（兼職兼業の職員を中心に元外部指導者等を充てる）
	中学校のない部活動で、新しく取り組む可能性がある活動			・関係団体と連絡調整をしながら進めていく

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

静岡県 伊豆市

自治体名：静岡県伊豆市

担当課名：社会教育課

電話番号：0558-83-5477

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	363.97 km ²
人口	27,674 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	566 人
部活動数	24 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在の運動部活動は、生徒・教員数の減少、教員の多忙化、生徒・保護者のニーズの多様化等の様々な課題が挙げられている。この課題に対し、運動部活動においては今後部活動の活動日及び時間短縮など規模の縮小を予定している。【部活動活動日：平日3日、休日4時間まで、終了時刻：令和5年度17:00→令和6年度16:30】

この状況に対し、令和5年度に地域スポーツ団体に中学部活動の地域移行受け入れ調査

を実施したが、週末の練習試合や大会引率などの対応は困難であり、受け入れ可能団体はない状態である。

また、今後生徒が選択できる活動の場は、
①部活動（今後更に縮小が見込まれる）・②スポーツクラブ（競技力向上が目的）・③帰宅し自由時間（塾や家庭学習等）の3つと想定され、①に希望する種目がない生徒や②に行きたくても諸事情でいけない生徒の活動の場がなくなることが懸念されることから、対策が必要である。

スポーツ団体調査【令和5年5月～6月】

スポーツ協会（社会人団体 17団体：18競技団体加盟 ○回答数 100% ※聴き取り含む）

⑦休日及び平日の学校部活動の指導者派遣（部活動指導員等）への支援は可能か？

→「支援可能」は、休日・平日ともに約26%

（理由）・平日や土曜日は仕事で支援困難・チームの指導や引率等の重責を担うのは負担

⑧今後、中学生の受け入れは可能か？

→「受入可」は68%

（課題）・大人と中学生と一緒に練習するのに配慮が必要

スポーツ少年団（小学生～高校生団体 25団体加盟 ○回答数 100% ※聴き取り含む）

⑦休日及び平日の学校部活動の指導者派遣（部活動指導員等）への支援は可能か？

→「支援可能」は、休日・平日ともに約32%

（理由）・平日や土曜日は仕事で支援困難・都合の良い時のみの指導な検討の余地あり

⑧今後、中学生の受け入れは可能か？

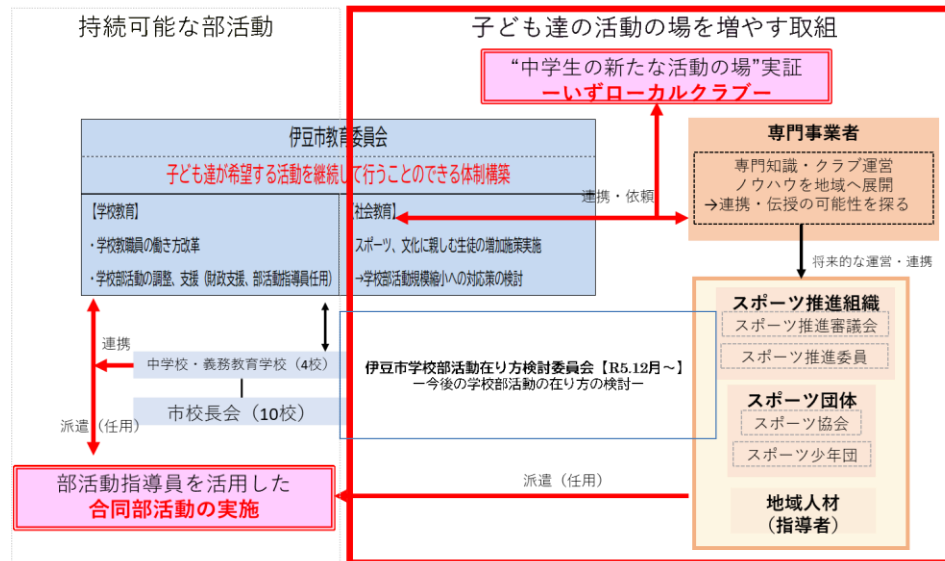
→「受入可」は88%

（課題）・ボールやコート等異なる規格への対応・試合引率や中学生チームの運営は困難

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

【学校教育課】

- ・運動部活動の地域移行に向けての検討（部活動指導員の導入等）

【社会教育課】

- ・子ども達が希望する活動の場の持続可能な体制構築に向けた検討、試行

◎首長部局

【企画財政課】

- ・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年3月	検討委員会に提案、協議
令和6年4月	モデル校生徒・保護者・教員へ説明 生徒へアンケート実施
令和6年5月	アンケート集計 →クラブ運営受託者の検討・決定
令和6年6月	検討委員会に進捗報告
令和6年7月	モデル校に募集チラシ配布・告知
令和6年8月	参加予定者決定、準備
令和6年9月～12月	クラブ試行 計12回 (第1.3水曜日・第2日曜日)
令和6年12月	参加者アンケート実施
令和7年1月	全校生徒アンケート実施、集計 次年度事業の検討

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
クラブ数	部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		いづローカルクラブ
全体の指導者数	1 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
いづローカルクラブ	民間事業者	ネット型スポーツ（新）	月 3 回 （第1・3水曜、第2日曜）	水曜 15:00～16:30 日曜 8:00～10:00	中学2年	令和6年9～12月	モデル校（中伊豆中学校）	1 人	1 人	なし	なし

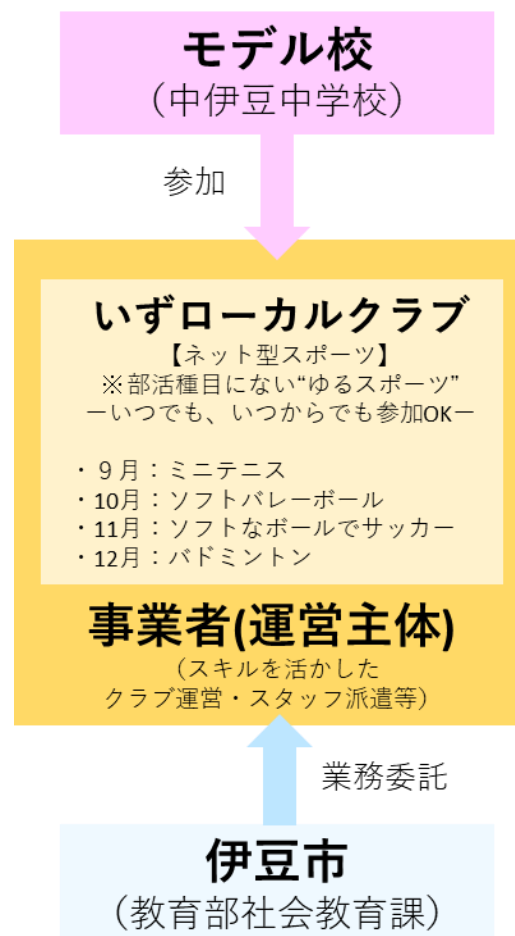
2.実証内容と成果

主な取組例

●いずローカルクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ネット型スポーツ
運営団体名	(株)エスパルス
期間と日数	ミニテニス：9月4.8.18日 ソフトバレー：10月2.13.16日 ソフトなボールでサッカー：11月6.10.20日 バドミントン：12月4.8.18日
指導者の主な属性	スポーツクラブコーチ
活動場所	中伊豆中学校体育館
主な移動手段	徒歩、バス、自転車、親の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：30円/回 指導者1人あたり：30円/回

●運営体制図 （活動実施時の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（講師）

クラブの実施、指導

→参加者の体力・運動能力に応じたメニューの実施

●運営補助者 1名（行政）

クラブ運営のサポート

→参加予定者の出欠・スケジュール確認（バス等下校時刻）、怪我その他事案への対応

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○市（社会教育課）が新たな地域スポーツクラブを創設・試行し、生徒が希望する活動の場の創設や事業内容について、生徒のニーズや満足度を調査し持続可能なクラブ活動へ繋げていく手法を検証する。

○クラブは、運動部活動の活動がない休日及び平日に、生徒への事前アンケート結果により希望の多いスポーツクラブ（既存の運動部活動競技以外の種目）を試行する。

○運営は、これまで当市のスポーツ事業に関わり子ども達の体力やスポーツへの関心度等を把握している事業者に運営を委託し、生徒が希望する競技等を継続して取り組みたいようなクラブ活動のプランニング・実施を行う。また、学校体育施設を活用し放課後そのまま参加可能な形で行う。

取組の成果

○試行段階では市（社会教育課）がコーディネートし、クラブ運営業務受託者・モデル校（中伊豆中学校）・検討委員会等の各団体との連絡調整・クラブ運営等を円滑に行うことができた。今後は、持続可能な体制の構築・運営主体の検討を協議していく。

○クラブの設定は、部活のない日で部活にない種目を行った。今後の部活規模の縮小や選択肢の一つとして、当クラブを新たな活動の場として提供できた。

○民間事業者に運営業務を委託したことで、参加者の満足度の高いクラブ内容となった。

コーディネーターの設置状況などについて

○現在、伊豆市にはコーディネーターは設置していない。今後運営を担う地域団体・指導者人材リストや連携可能なクラブとの調整など、「伊豆市学校部活動在り方検討委員会」で提案し助言等いただきながら、当市において効果的な体制構築を進めたい。

今後の課題と対応方針

○子ども達が希望するスポーツ活動に継続して関わることができ、切れ目なく活動できる場を提供できるよう、課題である中学部活動や放課後の充実の支援を充実し、生涯学習の推進を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

当市の現状・課題との関係性

当市のスポーツ協会及びスポーツ少年団の加盟団体会員数は減少が続き、若年層からスポーツを続け、将来指導者として地域スポーツ活動に尽力いただいている成人の人数も減少傾向にある。中学部活動はその後継続してスポーツを行う「生涯スポーツ」を支える重要な役割を持つことから、中学期でスポーツに親しむ場を維持していくことは、当市のスポーツ推進の観点からも重要である。

取組事項

令和6年度当初に、中規模校（モデル校）の全生徒に希望する競技等についてアンケート調査を行う。その結果に対応可能で、当市のスポーツ事業に関わり子ども達の体力やスポーツへの関心度等を把握している事業者に、生徒が希望する競技等を継続して取り組みたくなる活動のプランニング・実施が可能な地域事業者に委託することで、質の高い指導者を確保できた。

※指導者研修はスポーツ教室等を実施する専門事業者に委託し実施したため、実施していない。

取組の成果

○参加した中学生10人を対象としたアンケートの結果、各月異なる種目に対する満足度については、回答者全員が「大変満足」「満足」と回答し満足度の高い結果となった。

○講師は3人が交代で指導に当たり、毎回参加人数やメニューが異なる状況下においても参加者の体力・運動能力・性格などの特徴をクラブ開始序盤で把握、柔軟に対応し、参加者全員がスポーツを楽しむ“ゆるスポーツ”の場を提供できた。

○当クラブは放課後の活動であり、教員の負担を増やすことなく子ども達の活動の場を提供している。

2. クラブの内容はいかがでしたか？ ※途中から参加した方もいるため、数は実数

メニュー		大変満足	満足	不満	大変不満	合計
スポーツ	ミニテニス	3	0	0	0	3
	ソフトバレー	4	0	0	0	4
	ソフトなサッカー	6	0	0	0	6
	バドミントン	7	1	0	0	8

【出典】いずローカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

モデル校となる中学校をはじめ、学校と運動部活動の調整を行う学校教育課、新たなクラブ活動を運営する事業者、地域スポーツ団体との連絡調整を行うNPO伊豆市スポーツ協会等に対し、様々な活動の場への支援・連携を仰ぎながら、子ども達が希望する活動を維持する体制構築に向けて試行する。

取組の成果

○民間事業者が講師を務める点・新規クラブとして学校活動外で行う点など、従来の集団（クラス・部活動の部員）とは異なるメンバーと新たな活動ができる場として案内したことで、興味を持ってくれた生徒・保護者の理解を得られ参加に繋がった。

○一方で、クラブの概要・内容を上手に伝えきれず、「何をする場なのかわからない」「いずローカルクラブの存在を知らなかった」という生徒・保護者の声もあり、今後の案内方法等を改善する必要がある。

今後の課題と対応方針

○子ども達が希望する活動を継続して行える場を安定して提供可能な体制を構築するには、運営費の低コスト化・安定した指導者の配置・安定した財源の確保（一定の受益者負担）等の課題をクリアする必要がある。民間事業者の運営ノウハウを参考にしながら、今後地域で運営可能な体制を検討していく。

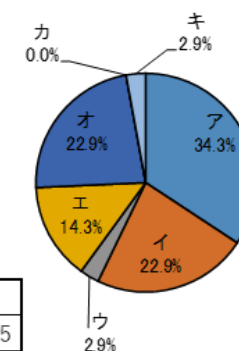
★クラブについて

1、参加のきっかけ、理由を教えてください（複数選択可）

- ア おもしろそうだったから
- イ 友達から誘われたから
- ウ 親に勧められたから
- エ 部活とは違う競技ができそうだったから
- オ 新しいことを体験できそうだったから
- カ その他（ ）
- キ 無回答

【参加のきっかけ】

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	合計
全体	12	8	1	5	8	0	1	35



【出典】いずローカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

運動部活動の将来のモデルケースとして新たな地域文化クラブの創設・試行を行い、子ども達が希望する活動の場の選択肢を増やすための検証を行った。

現状・課題

生徒・教員の減少により、運動部活動の活動規模は縮小の見込みであり、今後子ども達の活動の場は更なる減少が課題となっている点について、対策手法の一つとして本事業を実証し検証が可能となる。

活動の詳細

参加人数	10 人（最大）	指導者数	1 人
属性	部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目の木浦部を新規に創設）		
具体的な内容	市（行政）が新たな地域スポーツクラブを創設・試行する。生徒が希望する活動をアンケート調査し持続可能なクラブ活動へ繋げていく手法を検証する。対象は中規模中学校 1 校とし、運動部活動の活動がない休日及び平日に、希望の多いスポーツクラブ（既存の運動部活動以外の活動）を試行する。 クラブの運営には、これまで当市のスポーツ事業に関わり子ども達のスポーツ活動への関心度等を把握している事業者に運営を委託し、充実したメニューを行う。また、学校体育施設を活用し生徒が希望する活動の場を提供する。		
子供の声	● あまりやったことがなかったから新鮮だった（ソフトバレー） ● 毎回楽しかった ● もっとみんなに参加してほしいほど楽しかったです ● 授業以外のことができて楽しかった		
関係者の声	● いい試みだと思うが案内のタイミングが遅く、既に別の予定があり参加できなかった ● 新たな事業だったため、内容を理解できておらず参加に至らなかった生徒がいたのでは… ● 将来的な場の提供も大事だが、現在の部活やもったやりたい生徒への支援も必要かと ● 指導者リスト・活動したいグループの集約・マッチングをする運営団体を創ってほしい		
運営経費	・クラブ運営業務委託費 ・参加者保険料		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

子ども達が希望する文化活動の場を創設し、環境（活動場所、時間、内容等）についてニーズや満足度を調査する。経費は市で負担し参加料は無料とした。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・なし（行政にて準備）

■ランニングコストの分析

- ・会場使用料（0円）※学校体育施設利用
- ・指導者謝金（55千円）
- ・運営スタッフ人件費（2千円）
- ・指導者、スタッフ旅費（60千円）
- ・消耗品費（20千円）
- ・印刷製本費（35千円）※募集チラシ作成
- ・備品借用料（20千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

○今年度は初回の試みであり行政主体で参加者のニーズや満足度を検証するため試行した事業であることから、受益者負担なしで行った。

○仮に、今回のクラブ活動を受益者負担で行った場合

① 運営経費 約25万円

② 参加者数 33人（R6実績 延べ人数）

→②／①≒ 7,575円／人（12回） →約630円／人（回） であり、現状のまま継続実施する参加費としては決して安価ではない。

☆民間事業者のノウハウを参考に、充実したクラブ活動を行える体制構築に向けて協議していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

当市は市域が広く、登下校はバスを利用する生徒が多い。部活動や新たな場へ参加し帰宅するためのバス路線は限られた本数であることから、子ども達が放課後最も参加しやすい場所（モデル校の体育館）を設定し、今後の事業の継続性・内容の充実を図った。

取組の成果

○学校体育施設（体育館）の利用については、放課後の時間帯で学校活動外の利用であり、一般団体への開放と同様に利用申請・許可を経て利用し、特に問題なく利用できた。

○参加者や保護者にとっても、学校終了後そのまま体育館に移動し参加できたため、関心のある生徒の参加に繋がった。

○クラブ開催日を、部活動のない日（第1・3水曜日の放課後、第2日曜日の午前中）に設定したため、既に予定を入れてしまっていた生徒が多く、興味はあるが参加できないといった声もあった。

日	9/4(水)	9/8(日)	9/18(水)	10/2(水)	10/13(日)	10/16(水)	11/6(水)	11/10(日)	11/20(水)	12/4(水)	12/8(日)	12/18(水)
スポーツ【在籍10人(兼IT4人)】	ミニテニス			ソフトバレーボール			ソフトなボールでサッカー			バドミントン		
参加状況(人数)	1年男(2)			1年男(2)	1人部活のため0	1年男(2)	1年男(2)	1人部活のため0	1年男(5)	1年男(6)	1年男(4)	1年男(7) 1年女(3)

【出典】いずローカルクラブ活動の様子（社会教育課）

今後の課題と対応方針

○クラブ実施日は部活動のない日としているが、引き続き学校や学校教育課に事業趣旨を説明・理解を得ながら、活動日・場所の調整を図っていく。

○子ども達が希望する活動を継続して行う場の維持には、生徒が通いやすい場所・低コストで利用可能な学校体育施設の利用を依頼していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度初めて試行した「いずローカルクラブ」は、今後子ども達（特に中学生）が希望する活動を継続して行う場の確保するために行った。これは、将来的な「部活動の地域連携」を見据えたもの・生涯にわたり切れ目ないスポーツ・文化活動を行う「生涯学習の推進」に寄与するための取組といった観点から提案・実施した。

部活動は合同部活動の実施・部活動指導員の任用などで教員の負担軽減を図りながら継続していく見通しであることから、部活動と競合しない日時を設定し誰でも参加できる形式とし、各機関の理解を得て実施でき、参加者の満足度は高かった。

しかし、新たなクラブの実施であったため、対象者に事業趣旨を伝えきれていなかったり、部活動のない日には既に別の予定を入れてあるため参加できないなどの声もあり、人数は少数に留まった。

また、現在行っている部活動への更なる支援（部活動以外の時間で活動したい生徒への、場所・指導者の支援等）に対する要望の声もあり、再度状況確認が必要である。

●成果の評価

○「いずローカルクラブ」の参加者は、開始当初は3人と少数だったが最終回（12回）には10人に増えた。参加者や様子を見に来てくださった校長からの口コミの影響が大きかった。参加者に行ったアンケートではいずれも満足度は高く、もっと多くの人に参加してほしいという意見ももらえ好評だった。

○内容は事前にモデル校の全校生徒にアンケートを行い、部活動にない種目をベースに自由意見も聴取し決定した。メニューは「ネット型スポーツ」と名付け、ミニテニス・ソフトバレーボール・ソフトなボールでのサッカー・バドミントンなど、日頃行う機会の少ないオリジナルの種目を行い、参加者にも好評だった。

○部活動や学校活動にない種目を日頃関わりの少ないメンバーで行うクラブとなり、参加者から「新鮮で楽しめた」と好評だった。

●今後に向けて

○初年度は行政主体で行ったが、今後継続して活動可能なクラブ運営のため、実施主体を担う団体や自活可能な事業規模（財源・運営）の検討・調整を行っていく。

○参加者数は、想定（上限30人程度）をかなり下回った。告知でクラブの事業趣旨を伝えきれず、クラブの目的や存在が曖昧であった。今後は目的を明確に伝え、早い段階で告知し他の予定と競合しないよう準備していく。

○子ども達が希望する場を継続して行う場づくりのため、運営主体・指導者の発掘などを各機関と連携しながら、実現の可能性を探っていく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

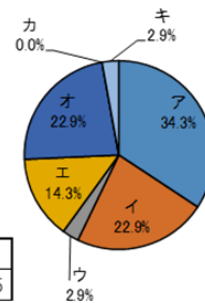
●アンケート結果 ・対象者 参加者10人

★クラブについて

1、参加のきっかけ、理由を教えてください（複数選択可）

【参加のきっかけ】

- ア おもしろそうだったから
- イ 友達から誘われたから
- ウ 親に勧められたから
- エ 部活とは違う競技ができそうだったから
- オ 新しいことを体験できそうだったから
- カ その他（ ）
- キ 無回答



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	合計
全体	12	8	1	5	8	0	1	35

(再掲)

2、クラブの内容はいかがでしたか？ ※途中から参加した方もいるため、数は実数

メニュー		大変満足	満足	不満	大変不満	合計
スポーツ	ミニテニス	3	0	0	0	3
	ソフトバレー	4	0	0	0	4
	ソフトなサッカー	6	0	0	0	6
	バドミントン	7	1	0	0	8
文化	生成AI	1	2	0	0	3
	eスポーツ	2	2	0	0	4
	プログラミング	2	1	0	0	3

【出典】いずろーカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

●参加者の声

中学1年生（女子）

- ・バドミントンだけの参加だったけど楽しかった。
- ・次はもっと参加してみたいです。
- ・ス孤児時間を長くしてほしい。

中学1年生（男子）

- ・あまり深くやったことがなかった。（ソフトバレー）
- ・やったことがなかったから楽しかった。（ソフトバレー）
- ・毎回楽しかった。

指導者

- ・素直で明るい生徒ばかりで、指導しやすかった。
- ・何事にもやってみようと全力で取り組んでくれていた。
- ・独自メニューを作成・実施し自由度の高い運動ができた。

学校

- ・新たな取り組みを当校生徒が体験出来て良かった。
- ・学校活動外の活動を異なる集団で行う場の創出は、生徒にとっても有益であった。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

○「いずローカルクラブ」実施に際し、令和6年3月～4月に、中伊豆中学校校長及び教職員・保護者（PTA総会時）の皆様へ事業の説明後、5月に全生徒へ「実施してほしいクラブ種目」の調査を行い、以下の結果をふまえ、メニューを決定しました。

○メニュー決定後、民間事業者と協議し参加募集チラシを作成・配布し参加を募りました。



【生徒への参加啓発チラシ】

出典:社会教育課

○調査結果（一部）

選択種目・結果（回答数 103 人／110 人 回答率 94%）

【スポーツ】

- ・ボールゲーム（Tボール、ドッチボール、キックベース）
- ・ネット型スポーツ（バレーボール、卓球、テニス、バドミントン）
- ・陸上体験（走る、投げる、跳ぶなどの上手な体の使い方）
- ・ライフキネティック（運動しながら脳を使う、誰でも楽しめるスポーツ）
- ・からだづくり（楽しくバランス、ストレッチ）
- ・ダンス
- ・悩んでいる・分からない
- ・その他（意見：野球1人）

26
43
7
3
1
9
13
1

調査の結果、希望の多かった下記クラブを実施予定で準備を進めます。

○ネット型スポーツ（バドミントン、ミニテニス、ソフトバレーボール等）

【アンケート結果】

出典:社会教育課

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バドミントン】



【ウォーミングアップ
ライフキネティック】



【ソフトバレーボール】



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、NPO法人伊豆市スポーツ協会、競技団体、市教委

●経過

令和5年度より検討委員会を設置し、各団体代表から現場の意見・要望などを共有するとともに、今後の部活動の在り方を協議した。

令和6年度は、合同部活動や部活動指導員の任用によって、部活動を行いながら、将来的に生徒が希望する活動を継続して行う場を提供できる体制の構築に向けたクラブ活動を創設・試行を行った。

●実施内容、工夫した点等

○生徒が希望する活動の場を、部活動以外の種目で活動日時を避け試行・検証した。市内中学校（中伊豆中学校）の全校生徒と対象に行った。

○運営は、当市のスポーツ事業に関わり子ども達の特徴を把握している事業者運営に委託し企画・実施を行った。

○学校体育施設を活用し生徒が参加しやすい活動の場を提供した。

●実施にあたって生じた課題

○生徒が希望する活動は何か明確でなかったため、モデル校の全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、メニューを決定した。

○クラブの運営主体・指導者などをコーディネートする役割を担う団体や人材が現時点で依頼できなかったため、行政（社会教育課）主体で企画・実施することとした。

●今後の展開

○クラブ終了後、参加者と対象校の全生徒を対象にアンケートを実施し、満足度・要望・「いずローカルクラブ」の認知度・より参加しやすい日時などについて調査・分析し、令和7年度により良い体制で運営できるよう、検討委員会に提案し協議・実施していく。

○現在活動している部活動で、もっと活動したいクラブや指導者などの要望について、検討委員会などで聴き取りつつ、いずローカルクラブでの活動に繋がるクラブの可能性についても検討していく。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

伊豆市が目指すスポーツ活動・文化活動の見通しと3つのステージ

◎少子化の中でも、**子どもの『やりたい』を叶えられる**体制づくり

- ・当面部活動は維持しつつ、**子どもが希望する活動を継続して行える場**を検討・試行
- ・多様な場は、部活動が果たしてきた「**教育的効果や居場所としての役割**」を**継承**しながら、**生涯学習推進**にも**効果をもたらす環境**として整備
- ・**地域の人や団体などの組織などと連携**し、持続可能な運営を目指す

